

中高年労働者における定年退職後の余暇活動に関する研究

○松永敬子 (大阪体育大学大学院)

原田宗彦 (大阪体育大学)

定年退職 余暇活動 体力 再就職 貯蓄

I 緒言

今日、先進諸国では例外なく人口の高齢化が進行している。全人口に占める65歳以上の高齢者人口の比率は着実に上昇し、1991年度は12.5%になった。その一方、週休2日制等の労働時間の短縮、人生80年のライフサイクル、家事労働の合理化や核家族、少子化の進行、学校5日制、レジャー産業の発展などがもたらされた結果、生活の中に占める自由時間が増大し、余暇活動への関心が高まった。その中でも特に、高齢化社会を迎えた現在、高齢者の余暇活動に対する関心が高まっている。そこで本研究では、人生の4分の1を占める定年退職後のセカンドライフに注目し、ライフサイクルの中の定年退職というライフイベントに焦点を当てた。

これまで、アメリカの疫学的な研究では、定年退職というイベントが身体的および精神的な健康の減退の原因にならないことを一貫して明らかにしてきた (Ekerdt, Baden, Bosse, & Dibbs, 1983)。しかしながらわが国では、定年退職が社会的役割からの離脱による生きがいの喪失につながり、心身に影響を及ぼし、さまざまな疾病を併発することがあると報告されている。あるストレスに関する調査では、40代・50代の定年退職によるストレスは、非常に高いと報告されている。また、副田 (1978) は「老人が退職をはじめとするさまざまな契機によって、参加しうる社会生活の各局面を縮小、喪失しつつあり、それがかれの心身に望ましくない影響を及ぼしつつある」と報告している。それゆえ、定年退職後の社会生活への参加をスムーズなものにするためには、多くの問題やニーズに対し、早い段階での問題解決やニーズの充足を目指す為の準備と努力が必要であると考えられる。本研究では特に「定年退職前」に焦点を当て、40代・50代の労働者の意識と実態を把握すると同時に、ライフサイクルの中で定年退職というライフイベントが、余暇活動の変化にどのような影響を及ぼし、さらにどのような要因がその変化に関連するのかを考察することを目的とした。

II 研究方法

本研究におけるデータの収集は、愛知県名古屋

屋市にあるM株式会社T支社、愛知県尾西市にあるT工業株式会社、大阪市労働安全衛生大学受講者(第23期生)の40代・50代計121名を対象に、1991年10月29日～12月17日に留置法(手渡し)による質問紙調査によって行った。調査内容は、中高年者の定年退職に関する意識と実態を把握するため、特に定年退職後の余暇活動に影響を及ぼすと考えられる要因として、(1)自己の体力評価、(2)定年退職後の再就職への意欲、(3)定年退職後の為の貯蓄を選択し、その内容を分析した。さらに定年退職後の余暇活動がどの様に変化するのかわかるために上記の3つの要因が定年退職後の余暇活動に対する影響を分析した。

III 結果及び考察

調査のサンプル特性は、表1からも分かるように40代・50代の約90%が男性の既婚者である。

1 定年退職後の余暇活動に影響を及ぼす要因

(1) 自己の体力評価

体力の自信度について、40代では5割、50代では4割の人が体力に自信を持っている。また、表1の自分の実際の年齢と自分の現在の体力年齢を予想した予想体力年齢との比較をみると、この中高年者のサンプルは、実際の自分の年齢よりも体力的に若いと判断している人が多く、また50代では、47%の人が現在アクティブな生活を送っていることが分かった。

(2) 定年退職後の再就職への意欲

40代・50代全体の7割～8割の人が再就職を希望しており、表2から4割の人が65歳位まで収入を伴う仕事を行いたいと希望していることが分かった。また、再就職をしない理由については「自由にのんびり暮らす」「体力がない」「余暇生活を楽しむ」の3つが上位を占めた。

(3) 定年退職後の為の貯蓄

定年退職後のための貯蓄を行っている人は、40代で55%、50代では71%とかなり高い数値を示している。貯蓄の目的をみると「老後の生活の為」が4割を占め、続いて「病気や不時の災害に備える為」となっている。また、50代になると子供の為に貯蓄している人が減少し、若干ではあるが余暇活動に当てる目的で貯蓄をする

人の割合が増える傾向にある。

2 3つの要因が定年退職後の余暇活動に及ぼす影響

定年退職後の余暇活動は変化するかどうかを質問したところ40代で58.8%、50代で37%が変化すると答え、その具体的な変化の仕方を見ると、現在の余暇活動を続け、それに加えて新しい余暇活動を始めるといった人が約4割を占めるなど、積極的な意見が多く、消極的な方向に変化するという傾向はほとんどみられなかった。また、定年退職後に新しく始めたい余暇活動は「旅行」がトップを占めていた。

最後に、表3に示したように特に「定年退職後の余暇活動の変化」に対して影響を与える要因になりうると推察される「現在の体力」「定年退職後の再就職」「定年退職後の為の貯蓄」の3つについて、それぞれクロス分析を行ったが、今回は、すべて有意な関係はみられなかった。定年退職後の膨大な時間が余暇生活に当てられ、それが生活全体の質 (Quality of Life) を決定づけるきわめて重要な因子になることは明らかである。今後の課題としては、今回の3つの要因と余暇活動との関連の他に、貧困、疾病 (健康)、無為、孤独の4大課題といわれている問題に対する意識や実態と余暇活動との関連や、定年退職後の医療、保健、福祉、学習の各サービス分野における余暇生活の充実や援助との関連に注目し、この定年退職前の意識が定年退職後実際にどう変化するかを縦断的に調査し、定年退職というライフイベントが及ぼす影響について研究していく必要があると考えられる。

表1 調査サンプルの特性 (単位：%)

項目	カテゴリー	40代 (N=87)	50代 (N=34)
性別	男性	93.1	91.2
	女性	6.9	8.8
		100.0	100.0
婚姻関係	既婚	90.8	93.9
	その他	9.2	6.1
		100.0	100.0
末子の年齢	0~4歳	3.8	0.0
	5~9歳	22.6	0.0
	10~14歳	38.9	0.0
	15~19歳	30.1	20.0
	20~24歳	5.0	50.0
	25~29歳	0.0	30.0
		100.0	100.0
居住	住宅ローン返済中の持ち家	47.6	33.3
	住宅ローンなし完済の持ち家	31.7	45.5
	民間の賃貸住宅	3.7	12.1
	公団・公社・公営の賃貸住宅	4.9	6.1
	勤務先の給与住宅	7.2	3.0
	その他	4.9	0.0
		100.0	100.0

表2 平均年齢と予想体力年齢

	40代 (N=84)	50代 (N=32)
平均年齢	44.2歳	53.9歳
予想体力年齢	41.4歳	49.4歳

表3 収入を伴う仕事をする年齢 (単位：%)

	40代 (N=81)	50代 (N=30)
50歳位まで	4.8	3.2
55歳位まで	4.8	6.3
60歳位まで	21.0	22.2
65歳位まで	25.8	34.9
70歳位まで	6.5	15.9
75歳以後働ける限り	6.5	7.9
わからない	30.6	9.5
	100.0	100.0

表4 定年退職後の余暇活動の変化に影響を及ぼす要因

(単位：%)

	体力には自信がある		体力には自信がない		定年退職後再就職する		定年退職後再就職しない		定年退職後の為に貯蓄している		定年退職後の為に貯蓄していない	
定年退職後余暇活動は変化する	25.9	27.7	53.6	36.8	16.0	52.8	33.6	20.0	53.6			
定年退職後余暇活動は変化する	23.2	23.2	46.4	38.7	8.5	47.2	25.5	20.9	46.4			
	49.1	50.9	100.0	75.5	24.5	100.0	59.1	40.9	100.0			

($\chi^2=0.07$ N.S. df=1) N=102

($\chi^2=1.84$ N.S. df=1) N=106

($\chi^2=0.60$ N.S. df=1) N=110